# FLORA KANAGAWA

Oct. 25. 2006 No.63

# 神奈川県植物誌調査会ニュース第 63 号

〒 250-0031 小田原市入生田 499 県立博物館内 神奈川県植物誌調査会 TEL 0465-21-1515 • FAX 0465-23-8846 http://nh.kanagawa-museum.jp/~kana-syoku/ e-mail katsu@nh. kanagawa-museum. jp 郵便振替 00230-5-10195



**ヒナツメクサ**. 2006年6月14日酒井道子氏撮影. 詳しくは本文782ページを参照してください.

勝山輝男:神奈川県のヒメムヨウラン・・・・・・・・・・・・・・・・・・7	80
勝山輝男:横浜平沼と川崎のオオクグ標本・・・・・・・・・・・・・・・・・・7	80
勝山輝男: サワトウガラシは絶滅していない・・・・・・・・・・・・・・・・・・7	80
佐々木あや子:アフリカフウチョウソウ・・・・・・・・・・・・・・・・7	80
佐々木あや子: ヒナツメクサ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7	82
金子紀子・古川冷實:シロガネチカラシバを野外で見かけて・・・・・・・・・・・・・・・7	83
林 辰雄: モエジマシダを鶴見区で記録・・・・・・・・・・・・・・・・7	85
大森雄治:三浦半島で発見されたクルマバヒメハギ・・・・・・・・・・・・・・・・7	86

# 神奈川県のヒメムヨウラン

(縢山輝男)

最近 (2006 年 7 月末), サカネラン属 Neottia L. の標本を再検討する必要があり、生命の星・ 地球博物館のサカネラン属の標本を調べた. ヒ メムヨウラン Neottia asiatica Ohwi のカバーの中に 1985年6月2日に秦野市菩提で採集され、ヒメ ムヨウランと同定された標本 (KPM-NA1073058) があった. この標本はサカネラン属を特徴付け る根の部分がなく、花茎のみの標本である. 乾 燥標本なので花部の細部はわからないが, 少 なくともヒメムヨウランではない. 『神奈川県植物 誌 1988』の調査時に使用していた茶色い紙のカ バーには「ヒメムヨウラン」を消し、「コケイラン??」 と書かれている。 花茎の様子や、 くしゃくしゃに なった花部の様子はコケイランに矛盾するところ はない. 採集月日もコケイランの花期と一致して いる. 確実な同定とはいえないが、この標本は コケイランの可能性が高い. いずれにせよ, 『神 奈川県植物誌 2001』の秦野市菩提のヒメムヨウラ ンの分布記録は、この標本に基づくものなので 削除すべきものである.

ヒメムヨウランは神奈川県植物目録(1933)に高座(海老名)と中(鷹取山)を記録し、首都大学東京の牧野標本館には「武蔵横浜 1915 牧野富太郎 MAK-26105」のラベルがついたヒメムヨウランの標本がある。ヒメムヨウランは亜高山帯の針葉樹林下に生えるラン科植物で、照葉樹林帯での分布は疑問があるが、この標本があるため神奈川県では絶滅種として扱うことになる。

# 横浜平沼と川崎のオオクグ標本

(勝山輝男)

Flora Kanagawa No.53 (2002) で横浜西戸部産のオオクグ Carex rugulosa Kük. (カヤツリグサ科) の標本が国立科学博物館に残されていたことを報告した. 今回, 首都大学東京の牧野標本館の標本を調べたところ,「横浜平沼 牧野富太郎 1911 MAK-218285」,「横浜平沼 Apr.1912 MAK-218286」,「横浜 1905 松 野 重 太郎 MAK-109037」,「武蔵川崎 June,2,1914 大阪府女子専門学校標本 採集者不明 MAK-217828」

の4点のオオクグの標本があった. 横浜の3点の標本は産地の表記は異なるが,前回報告したものとほぼ同じ産地で採集されたものと思われる. 武蔵川崎の記録は新たな発見である. 現在の東京湾沿岸にオオクグは見られないが,当時,東京湾の塩湿地にかなり広くオオクグが分布していたことがうかがえる.

## サワトウガラシは絶滅していない

(勝山輝男)

『神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006』ではサワトウガラシ Deinostema violaceum (Maxim.) T.Yamaz. (ゴマノハグサ科) は絶滅種とされたが、2005年9月に菅澤桂子氏により、相模湖町寸嵐で採集されており、絶滅危惧 I A 類と判定すべきところであった. 標本データベースに入力されたのが2006年2月で、このときにはすでにRDBの評価は終わっていた. 絶滅種が一つ減ったのだから、よろこぶべきことではあるが、標本提出、データ入力、標本のマウント、配架のどこかの過程でサワトウガラシの標本に気がつけば、印刷前に訂正することは可能であっただけに、編集に携わった者としてはちょっと残念なことである.

# アフリカフウチョウソウ

(佐々木あや子)

先日, 二宮町在住の方から「見慣れない小さな植物が花をつけている」という連絡をいただき, 見に行きました. そこは空き地になっていてメヒシバやエノコログサが生えていますが, 2年程前までは家があったところでした. その一角に小さな花をつけた植物が地面を這うように見られました. 中には通路のコンクリートの割れ目に根を張っている個体もありました. フウチョウソウの仲間ではないかと思い, 持ち帰り帰化植物図鑑で調べてみたところアフリカフウチョウソウ Cleome rutidosperma DC. と分かりました.

アフリカフウチョウソウは植村・水田 (2002 Bunrui 2(1): 27-28) が兵庫県神戸市産の標本で和名を新称しました. 熱帯アフリカ原産で東南アジアや熱帯アメリカに広く帰化するとしています.

わが国へは兵庫県と東京都多摩市に帰化の報 告(帰化植物図鑑 平凡社)があるが県内への 帰化の報告はありませんでした.

以下、標本を基に形態を記しておきます.

高さ10~15cm. 茎は基部でよく分枝し、枝は 横臥して地を這う、茎はまばらに毛があり、葉は 互生し3小葉で小葉は先の尖った楕円形. 花は 単生、 葉腋につき花柄は 3cm、 花は約 8mm で 淡紫色, 花弁は4枚. 果実は直径4㎜, 長さ 5 cmで縦脈が目立つ、熟すと弾け多数の種子を 飛ばす. 種子は黒色、径 1.5mm しわ模様があ る扁球形で、エライオゾームがある.

中郡二宮町山西 Jul.17.2006 佐々木あや子 KPM-NA0125925; 足柄上郡大井町山田 Sep.24, 2006 山本絢子 KPM-NA0125927.



アフリカフウチョウソウ.

## ヒナツメクサ

3cm

(佐々木あや子)

先日、伊勢原市在住の酒井道子さんから開花したシャジクソウ属の写真が送られて来ました(表紙参照). そこで酒井さんにお聞きし, 生育地を見に行きました. そこは最近路肩や法面を工事したところで, 写真の植物はシロツメクサに混じってピンクの花をつけていました. 大きな株で

幸い花瓶にさしておいた花が果実になりましたの で、その形態を見ることができました. M. Zohary & D. Heller (1984 The Genus Trifolium) で調べたところ Torifolium resupinatum L. と出ていました. 念のため科博の標本を見に 行ったところ T.resupinatum で間違いありません でした. T.resupinatum はすでに浅井(1952相模・ 藤沢近傍帰化植物報告)により, 藤沢で採集さ れた標本を元にヒナツメクサの和名がつけられ、 長田(1972日本帰化植物図鑑 北隆館)に記 述がありますが、県内からはその後報告はありま せんでした. また、同じころ県博に送られてきた川崎市多摩 川産のシャジクソウ属の不明標本があり、これも ヒナツメクサでした. 神奈川の伊勢原と川崎とい う離れた2ヶ所同時に再出現したことになります. 以下, 採集標本を基に形態を記しておきます. 1年草, 茎は直立または斜上し, 下のほうか ら多く分枝し、 高さ40~50cm. 基部の葉は大 きく、上部のものは小さい. 葉柄は基部のもの では長さ5cm, しだいに短くなり, 上部のもので は長さ1cm. 小葉は楕円形, 基部は楔形, 先 В 1mm 1cm E 1mm C ヒナツメクサ. A: 全体, B: 小花, C: 若い果実 (上唇側から), D:同(横から),

E: 小葉.

したが1株しかありませんでしたので、1枝いた

だいて標本にしました。 また果実になるのを期

待して花瓶にさしておきました. 後日、果実の

確認に行きましたが、シロツメクサに混じってい

たためか、または刈り取られてしまったのか分か

りませんが、 見つけることができませんでした.

1 mm

端は尖り、葉縁には細かく鋭い鋸歯がある. 托 葉は無毛、膜質で卵形、縦線が目立ち先は 尾状となる. 頭状花序は葉腋に1つずつつき、 総花柄は葉柄より明らかに長く、はじめ扁球形 のち球形、径1.2~1.5cm、基部の総包片は微 小で目立たない. 花は淡紅色~紅紫色、長さ 7mm、萼は上下2唇にわかれ、上唇は下唇と 同長かやや長く、長毛を密生し裂片は細く尖る. 花は開花するにしたがい、花弁の位置を転倒、 舟弁が上側に、旗弁が下側になり、上唇は花 後大きく膨らみ袋状となる. 豆果は1種子を入 れる.

#### 標本

川崎市中原区小杉 多摩川樋管の上流 100m Aug.14,2006 浅生宗蔵 KPM-NA0125612; 伊勢 原市子易仁が久保林道 Jun.25,2006 佐々木あや 子 KPM-NA0125926.

# シロガネチカラシバを野外で見かけて (金子紀子・古川冷實)

#### 1. 発見時の印象(金子)

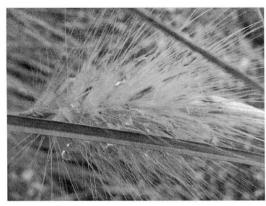
2006年8月はじめ、横浜市金沢区西柴1丁目の国道16号に面した交番の脇で信号待ちの車から知らないイネ科植物が見えた。シナダレスズメガヤが大きな白っぽいエノコログサの穂をつけた感じであった。8月16日、再度現地に詳細に見に行った。長くて細い葉は触ってみると非常に硬くシュロの葉と似た触感であった。穂もかなり太く、ノギが長く、エノコログサ属ではない。

園芸種かもしれないと付近のお宅を覗いてみたが見当たらず、分からないので古川さんに写真を見ていただき、標本も採取していただいた(横浜市子ども植物園に収蔵の予定). Pennisetum villosum R.Br. ex Fresen. であることが分かった. 同時に園芸種に詳しい方が書き込みをされているネットの掲示板で質問したところ、通称「ギンギツネ」と言われているそうだ.

#### 2. 特徴や越冬性など(古川)

Pennisetum (チカラシバ属) は世界に80~130種あるとされ、シロガネチカラシバはエチオピア、北ソマリヤ、アラビア半島の山地などに自生する. 園芸品として世界で栽培されており、日本でもオーナメンタル・グラスのひとつとして最近人気が出ている. 園芸における流通名あるいは一般名として「ギンギツネ」とも呼ばれ、ほかに「ペニセタム・ギンギツネ」と称されることもある.

金子さんから知らせを受けて発見場所に行って みると、道路脇のコンクリート製段差と石垣のわず かな隙間に根茎を張り大きな株をなしている。 花 序は白色の剛毛が長く伸び、剛毛を含めた太さ は5 cmほどもあって、エノコログサ属の細長い花 序とは印象がかなり異なる。 見た目にはふさふさ した長白毛の中に小穂の緑色と長い雌しべが見 え隠れしているのが特徴的だ。この周辺にはほ かに分布は確認できず、どのような経緯でこの 場所で生育するに至ったか見当がつかない。 園 芸品の逸出なのか、それとも永続帰化へとたど





シロガネチカラシバ. 2006年8月16日, 金子紀子撮影.

るいずれかの段階にあるのかといった野生化の 程度についても今のところ不明.

小穂等の形態をもとに種名を調べたところキビ 亜科、キビ連、チカラシバ属へと行き着き、チカラシバ属の中でも①小穂がとても長くて $9\sim12$  mm、②剛毛が羽状に分岐して白色、③主剛毛 (primary bristle) がそれ以外の剛毛よりさほど長くない —— などにより P. villosum と同定できた. エダウチチカラシバ Pennisetum orientale Rich. も剛毛が羽状に分岐するが、花序が長さ  $15\sim25$  cmの円柱状で、暗紫色のうえ、小穂も長さ  $4\sim6$  mmほどしかない. なお成熟期に小穂が果実を包んだまま剛毛と共に脱落することで、剛毛を残して小穂のみ脱落するエノコログサ属とは異なる.

園芸品として花壇植栽や鉢植えにされ、日なたと湿り気のある土を好む. 強健だが凍らせないレベルの管理が必要となるため、多年草ではあるものの冬越えさせるよりも播種による栽培で一年草として扱うことが多い.

世界広く園芸品の逸出にもとづく野生化が進んでいることから、金沢区のこの場所に定着するのか否か、今後の神奈川県における野外での発見の広がり及び野性化の可能性を含めて興味深いものがある。その場合の主要なポイントとなる生理的特性のひとつが越冬性である。園芸栽培におけるギンギツネの耐寒性については諸説あり「5℃よりいくらか低くなっても生育可能」や「-5℃まで耐えることができる」などがある。一定気温以下の土地で越冬させるためには屋内などに移すか、マルチングなどによって株元を覆うことが必要になる。こうしたことからすると園芸品が逸出したとしても越冬できないケースもあるだろう。

神奈川県における生育(枯死)状況の1例を紹介したい.神奈川県農業技術センター・果樹花き研究部は緑化樹圃場・宿根草見本園に、日本独自の気候との関係や鑑賞性の維持について調べるため多年草120種とともにシロガネチカラシバを栽培している.このほど生育状況を問い合わせたところ、「昨年はきれいに(稈や花序が)出ていたが、今年は出ていない」とのことで、数年間は無事に生育するものの、それ以上は持続することなく枯死するという.同研究部

はその原因について幅広い要因があり得るとしながらも、とくに地面が凍ってしまうと生育できないことを主因に挙げている。なお同圃場は平塚市上吉沢にあるが、冬の気温は平塚市街よりも約2℃低いという。近くの辻堂に気象庁の気温観測地点があるのでその冬季気温が興味深いが、あるいは昨年と今年の気温差も影響している可能性はないだろうか。

本稿は冬季に枯死した神奈川県農業技術センターのケースと、株のマルチング等や室内への移動によって越年可能としている多数のケースがあることにもとづき耐寒性に着目しすぎているかもしれないが、野生化の途次にあるシロガネチカラシバが越冬できるか否かは、神奈川県内でも場所によって異なる場合があると考えられないではない。また野外で生育しているのを発見した場合でも、数年以上それが継続するかどうか観察を要すると思われる。

参考に供するため神奈川県各地における昨年 と今年の1~2月の最低気温等(気象庁発表) を付記する.

< 2005年1~2月>

< 2006年1~2月>

最低気温=横浜-0.7°C, 三浦-1.1°C, 海老名-5.8°C, 辻堂-2.2°C, 小田原-4.5°C 日最低気温が0°C以下の日数(冬日という)=横浜4日, 三浦3日, 海老名35日, 辻堂11日, 小田原19日

最低気温=横浜-2.2℃, 三浦-1.7℃, 海老名-5.7℃, 辻堂-3.3℃, 小田原-3.6℃ 日最低気温が0℃以下の日数=横浜8日, 三浦6日, 海老名34日, 辻堂20日, 小田原28日

#### 3. 形態(同)

多年草で根茎があり、引抜きにくい、 稈は直立し高さ  $15\sim75~\mathrm{cm}$ . 葉鞘は無毛で口部に白毛がある. 葉舌は高さ  $1\sim1.3~\mathrm{m}$ ほどの毛列となる. 葉は長さ  $10\sim50~\mathrm{cm}$ , 幅  $2\sim5~\mathrm{mm}$ , 内側へ  $2~\mathrm{cm}$  に表面がざらつき、基部に縁毛がある.

花序は長さ5~11.5 cm, 幅5~7.5 cmと太い.

花序の中軸には軟毛があり、 短い枝には数多く の剛毛と1~4小穂がつく、剛毛は外側のもの が 4~8 本あり長さ3~13.5 mm. 内側のものが 20~40本で羽状に分岐し、長さ10~50 mm. 主剛毛 (primary bristle) は長さ40~50 mmで、 他の種に比べるとさほど突出した長さとならない. 小穂は披針形で2小花からなり、長さ9~12mm、 薄緑色、第1包穎は膜質で無脈、長さ約0.3 ~1 mm, 第2包穎は1~3 脈で長さ2.5~5 mm. 第1小花は雄性または不稔、護穎は長さ7.5~ 11 mm, 7~9 脈, 内穎は長さ5.5~8.5 mmで. 無いこともある。第2小花は稔性、護穎は長さ 9~11.5 mmで7脈、内穎は長さ6.5~9.5 mm. めしべは花柱が長くて柱頭部分が小穂の 2/3 か ら同長ほど突き出て目立つ. 穎果は成熟期に護 穎と内穎に包まれ剛毛とともに脱落する。 花期 は6~10月.

#### 主な文献:

Clayton, W.D & S.A.Renvoize, 1986. Genera Graminum, Grasses of the World. 389 pp. Her Majesty's Stationery Office, London.

Barkworth, Mary E.(eds.), 2003. Magnoliophyta: Commelinidae (in part); Poaceae, part 2. Vol. 25 -Flora of North America. pp. 351-529. Oxford University Press, New York.

Hitchcock, A.S., 1951. Manual of the Grasses of the United States. 2nd. ed. pp. 727-730. Dover, New York.

# モエジマシダを鶴見区で記録

(林辰雄)

2006年8月1日,横浜市鶴見区東寺尾でモエジマシダを確認したので報告する。モエジマシダは1997年に後藤昭子さんが神奈川区鳥越で,和田良子さんが2004年に西区浅間台で採集されている。

今回確認した場所は鶴見区東寺尾一丁目.バス停内路から数分入った,「入江川せせらぎの緑道」の入口で,ここは幅 1.5m ほどの小川が流れ,両側に大きな石組みがあって,石の間にモエジマシダが着生していた.大きな株は高さ60cmくらい,小さなものは25cmくらいで,着生の密度はそれほど多くなく,緑道を上流に向かってだんだん少なくなり,100mほどの距離に20株ほどが見られ、そこから上流では見られない.この石組みには他にホウライシダ,ヤブソテツ,イノモトソウ,タチシノブ,それにメキショマンネングサが生え,水流の中にはセキショウが見られた.

モエジマシダが見られる3ヶ所は鶴見区、神奈川区、西区と互いに隣接している。日本では九州、琉球が分布の中心で、熱帯では雑草とされていて、神奈川県のものは栽培していたものからの逸出と思われる。強い繁殖力のモエジマシダは今後も神奈川県内で分布を広げてゆくのではないかと思われる。西区の現場は見ていないので分からないが、神奈川区や鶴見区ではいずれも冬季、北風が当たらない向陽の石組みなので、今後そんな場所でモエジマシダが見つかるかもしれない。





モエジマシダ. 2006年8月1日撮影.

# 三浦半島で発見されたクルマバヒメ ハギ

(大森雄治)

ヒメハギ科の帰化植物クルマバヒメハギ Polygala verticillata L. が横須賀市光の丘, 光の丘水辺公園内で見つかったので報告する.

横須賀植物会会員の岩切千代子さんから,横 須賀市光の丘「光の丘水辺公園」の「四季の池」 の園路に沿った植え込みの中に,これまで見た ことのないヒメハギ科らしい植物があるとのお知ら せを受け,2004年7月1日に岩切さんのご案 内で現地を訪れた.葉は4輪生している節もあっ たが,ハリヒメハギもそうなることがあるとの記事も あり,ハリヒメハギと同定した.その後2006年6 月29日に同じく横須賀植物会の石橋美春さんが 同じ場所からハリヒメハギのようだが,葉が4輪 生しているので違うのではとさく葉標本を持ってこ られた.改めて標本や写真を見直し,千葉県植 物誌により,クルマバヒメハギが近隣に存在する ことを知り,下記の記載から判断してクルマバヒメ ハギと同定した.

「クルマバヒメハギでは、少なくとも下方の葉は2-5輪生し、ハリヒメハギでは葉は互生し、時に下方で2-5輪生する. 両種とも花序は総状花序で下から順に成熟し、脱落する. そのため、クルマバヒメハギでは、花序(果序)は4cmまでになるが、花や果実がついている部分は6-15mm、一方ハリヒメハギでは花序(果序)が10cmまで伸長し、花や果実がついている部分は1-5cm」(Gleason&Cronquist 1991).

クルマバヒメハギは浅井 康宏先生がかつて神奈川 で採集されている(浅井・ 斉藤 1979)が、『神奈川県 植物誌 2001』には掲載さ れていない、今回の記録 は県内では2例目になる が、千葉県・神奈川県以 外からは見つかっていない ようである(清水編 2003).

光の丘水辺公園は3つの池と湿地,それをつなぐ

水路と散策路からなる公園で、横須賀リサーチパークが造成されたときに、造成前の自然環境を復元しようと、周辺の山林はほとんど手を入れず、池の底土や湿地の土は、埋め立て前の杉釜の池の底土を移植するなどの配慮がなされた公園である。とはいえ、谷は40mほど埋められ、園路の周囲には様々な低木が移植されている。これらに混じって北米原産の本種が出現したものと推定される。

日ごろから地元の植物に関する情報や資料を 提供されているお二人に、お詫びと感謝を申し上 げる.

#### 汝献

浅井康宏・斉藤吉永,1979. 北米産の新帰化植物クルマバヒメハギ(新称). 植物研究雑誌,54(12):376-377.

千葉県史料研究財団編,2003.千葉県の自然 誌 別編4千葉県植物誌(県史シリーズ51). 1181pp. 千葉県.

Gleason, H.A. and Cronquist, A., 1991. Manual of vascular plants of northeastern United States and ajacent Canada, second ed. 910pp. The New York Botanical Garden.

清水建美編, 2003. 日本の帰化植物. 337pp. +160pls. 平凡社.





クルマバヒメハギ .2004年7月1日撮影.